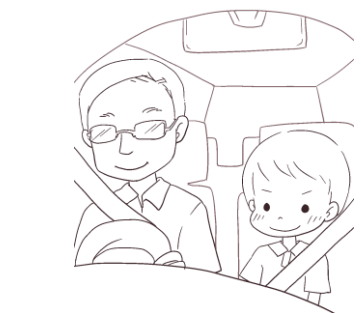


## 折口海岸清掃



「めんどくさいな。」  
「きたないな。そして、暑い。」  
そんなことを言い合いながら、ぼくは、友達と海岸清掃をしていました。今日は、この後に地引網大会が待っています。創立百二十周年記念行事として行われるものです。  
（早く終わらないかな。地引網がしたい。）そんなことを考えていると、教頭先生が終了の放送を行いました。  
「やった。終わった。地引網だ。」  
友達と一緒に喜びました。

最初の集合場所に帰ろうと砂浜を歩いていると、民生委員のおじさんが、ごみ拾いをしている姿を見かけました。  
（もう終わったのに、まだやっているんだ…。）  
すると、おじさんが、ぼくたちに声をかけてくださいました。  
「ありがとうね。おかげできれいになった。おじさんもたまにひとりでごみ拾いしているのだけど、やはり、人数にはかなわない。たくさんの子どもたちが、一生懸命、掃除をしてくれて本当にありがたい。ありがとうね。」  
ぼくは、なんだか恥ずかしくなってきました。その後、楽しく地引網をしました。が、なんとなく喜べない自分に気がきました。



帰る車の中で、父が、  
「楽しかったか。たくさん魚も獲れてよかったね。海がきれいだから、たくさん獲れたんだよ。掃除もみんながんばったね。」  
「お父さん、実は、民生委員のおじさんからもほめられたけど、あまりうれしくなかった。だって、一生懸命していなかったから…。」  
「そうか。しかし、それに気づいた、たかひろは、えらいなあ。」  
「お父さん、ぼく、これからは、ボランティア活動をがんばるよ。ここは、ぼくのふるさとだ。校長先生がおっしゃられた青い空、青い海を守っていきよ。」  
「おとうさんもできることからがんばるか。生まれ故郷だからな。」

九月に入り、全校朝会で、校長先生が朝のボランティア活動について話されました。最近、みんなの活動の輪が広がってきているとほめてくださいました。ぼくだけではなく、同じように考えた友達がたくさんいたのかとうれしく思いました。  
まずは、自分にできることを考え、実行し、青い空、青い海をこれからも守っていききたいと思います。

